

コーポレート・アイデンティティ(CI)の活動内容と推進方法の明確化

近畿編針株式会社 (奈良県)

竹製品、編み物・手芸用品等の製造・販売を通じ、心を豊かにする生活文化の提供

1. 相談のきっかけ

- 2016年に創業百周年を迎えるに当たり、社名の変更や会社のロゴマークの見直し等、CIに取り組みたいと考えている。
- 海外商標登録等の相談に訪れた奈良県発明協会からの紹介で、当拠点へ支援依頼があった。

2. 課題整理・分析

- 商品のブランドが複数存在し、マークのデザインが統一できていない。
- 海外の販売比率が高く、英語圏における現社名の印象が良くない。(kinky:「異常な」、などの意)
一方、品質への評価が高く、社名を変えることがデメリットとなる。
- 社名やマークを変えることによって、在庫整理等の経費も発生する。

3. 解決策の提案

CIの基本戦略を具体的にアドバイス

- CIの種類とその内容について説明し、社名変更によって発生するプラス面とマイナス面を考え、何に重点を置くかを決めるようアドバイス。
- 自社の「こだわりのもの作り」や「品質の強み」について整理し、企業理念等をベースにしたストーリーの明確化。
- CIのステップとスムーズに推進するための計画作成を行うことをアドバイス。



4. 成果

- 市場に対する影響を考えた上で、「近畿編針」という社名は当面そのままにした方が良いと判断し、今回取り組む内容を商品ブランドの確立、ロゴマークの改定に集約することに社内でオーソライズできた。
- 2016年が創業百周年であることと海外登録申請の時期を見据えた結果、ブランド確立とロゴマークの制定目標を5月中旬として設定した。
- 今後の活動をスムーズに進めるため、よろず支援拠点を通じた専門家派遣を活用して、具体的にブランドの確立、ロゴマークの制定の作業に入ることを決定した。

